



ミズバショウ

うるしざわ 漆沢ダム



▲厳冬の鳴源湖（めいげんこ）



鳴瀬川水系鳴瀬川は、その源を船形山（標高 1,500m）に発し、大崎平野の農耕地帯を貫流しながら東松島市野蒜において仙台湾に注ぐ、流域面積 1,133 km²、流路延長 89 kmの一級河川です。

鳴瀬川は大正 12 年（1923 年）から改修に取り組んでおり、昭和 22 年（1947 年）9 月のカスリン台風、昭和 23 年（1948 年）9 月のアイオン台風による洪水を契機とし、治水ダムとしてダム築造が検討され始めました。漆沢ダムは昭和 45 年（1970 年）度からダム本体の建設に着手し、時代の変遷により窮迫した水需要への対応、オイルショックによる電源開発の必要性の検討と 2 回の計画変更を経て、多目的ダムとして総事業費 166 億 5 千万円をかけ、昭和 56 年（1981 年）3 月に完成しました。

また、将来的には鳴瀬川支川の筒砂子川において鳴瀬川ダムが建設される予定であり、鳴瀬川ダムが完成した後は、漆沢ダムは治水専用ダムとして供用される予定です。

■ダムの目的

洪水調節【F】

計画高水流量 650 m³/s のうち、最大 470 m³/s の洪水調節を行い、鳴瀬川下流沿岸地域（13,835 ha）の暮らしを洪水から守ります。

上水道【W】

大崎地区、黒川地区、栗原地区の 9 市町村及び松島町に対し、1 日 90,000 m³ の取水を可能にします。

流水の正常な機能の維持【N】

農業用水（8,309 ha）及び上水道用水等の既得用水に対し用水補給すると共に、流水の正常な機能の維持を図ります。

工業用水【I】

大崎地区、黒川地区に対し、1 日 60,000 m³ の取水を可能にします。

発電【P】

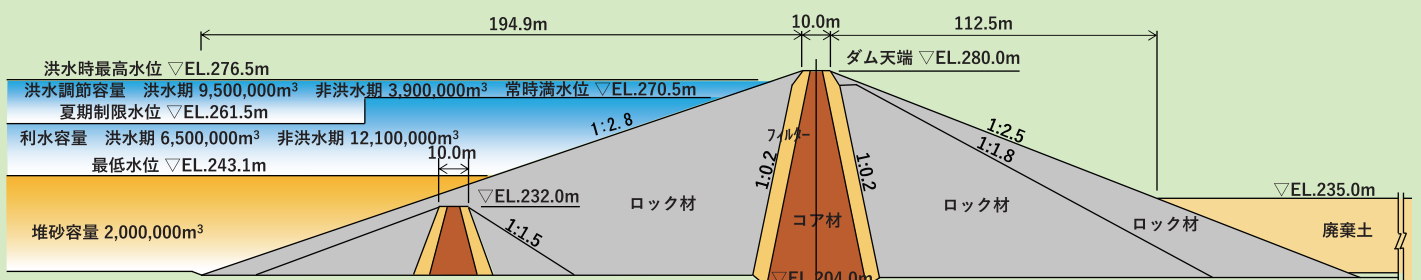
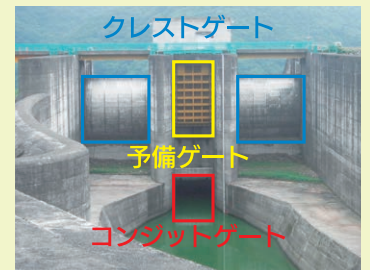
漆沢発電所にて、最大 3,000 kw の発電を行います。

ダム諸元

河川名：一級河川鳴瀬川水系鳴瀬川
所在地：加美郡加美町漆沢
完成：昭和 56 年（1981 年）3 月
形式：中央コア型ロックフィルダム
堤高：80.0 m
堤頂長：310.0 m
堤体積：22,000 千 m³
総貯水容量：18,000 千 m³
洪水調節容量：9,500 千 m³
利水容量：洪水期 6,500 千 m³
非洪水期 12,100 千 m³

コラム

洪水調節は中央のコンジットゲートで行い、最大 180 m³/s を放流します。
左右のクレストゲートはダム計画規模を超える洪水時に操作し、貯水位を維持する（流入量 = 放流量）操作を行います。



▲標準断面図